



国労せんだい

No. 2664
2013年11月25日
発行責任者 大沼 元
編集責任者 武田 昌仙

期末手当低額回答させない

11・11貨物総行動！

全国貨物協議会は、「貨物会社の賃金抑制に反対し、期末手当の低額回答をさせない11・11貨物総行動・院内集会」を開催。夏季手当の1・1ヶ月という超低額回答を絶対させないために、関係箇所への要請行動と意思統一を図った。

大衆行動と本社要請

11月11日13時、新宿「花園西公園」に集合した貨物組合員ら総勢300人は、JR貨物本社前をシュプレヒコールを交えながらのデモ行進など整然と大衆行動を開始。

一方で、本部田中副委員長、小池委員長、星野中執、関東貨物協賛議長、東北貨物協大越議長の5人で貨物本社へ期末手当の要請を行なった。本部および貨物役員は、「夏季手当時のような不誠実な対応はしないように。また生活給として3・0ヶ月と明言したが、現在の生活給は2・0ヶ月であるという。交渉経過を無視するのか。スタート地点の変更は不誠実であり、信頼関係が無くなる」と迫るが、会社は、「3・0ヶ月は当時の一般論であり約

現場組合員の思い

続いて、関東斎藤議長、東北大越議長が現場の思いを直接貨物会社に訴えた。大越議長は、「東北では組合員6人が夏季手当時、低額の為24控除が出来ず、

融資を受けた者もいる。全国になれば相当の人数に。また奨学金の返済や車検代を計画的に手当を活用していたが今後の計画が立たないと嘆く者も。この様な超低額な支給状態が続くと住宅・車の返済が出来なくなる。自家用車を手放した若者や良い仕事先があれば会社を辞めたいと漏らす若者も。社員と家族を苦しめないでもらいたい。年末手当はきちんとした回答をお願いしたい」と組合員・家族の切実な声を会社に届けた。

院内集会

また院内集会では、社民党首吉田参議院議員、日本共産党辰巳孝太郎参議院議員からそれぞれ連帯のあいさつを受けた後、期末手当の満額獲得に向けた情勢報告と闘う意思統一を行った。本部は、「貨物会社の夏季手当の関いは社長の『賃金抑制』の発言により、大変厳しい闘いになり、過去最低の1・1ヶ月となり社員と家族を苦しめている。

- 11・16
各地方本部組織部長会議

11・17
東日本運輸協議会交流会

11・19
東北貨物協議会役員会

11・19
第37回安プロ・第28回各支部業長合同会議

11・19
貨物団交

戦争がなければ平和ですか？

国労本部は11月22日～23日、国労フクシマ交流・視察学習会を開催した。

集会開催の目的として、本部は、「東電福島第一原発事故の影響により、福島では今も15万人超の人々が避難生活を強いられている。また福島原発では核燃料の回収どころか、海洋など環境への放射線物質の拡散が続くなど極めて深刻な状況

一方で、中間決算では自然災害や北海道の脱線事故で多数の列車が運休しているにも関わらず3期ぶりに2億円の経常利益を上げている。『期末手当は業績の反映』とは会社が赤字の時、よく言っていた言葉だ。下期においても順調に推移するとの会社のとらえ方であるが、『鉄道事業部門を黒字にする為、要求には答えられない』と、全く噛み合わない回答に終始している。また、生活給は3・0ヶ月と以前の交渉で公言していたが『賃金研究センター』等の報告では2・0ヶ月である」と交渉経過を反故にする言動を行っており、これを許さず全組合員の総力で超低額回答を阻止しようと訴えた。



講演に聞き入る参加者



報告する高野桜さん

今回の参加者は、被災地当該地本である水戸・仙台をはじめ、東日本本部内全ての地方本部代表、さらに北海道・西・東海・四国・九州本部の代表など全国の代表者で構成されており、

（※交流・視察学習会の詳細については、後日「国鉄新聞」および「国労東日本」に掲載される予定であり割愛する）

就労、就学など将来に大きな不安を抱え日々の生活を続けている。東日本震災を風化させず被災者の生活を再建と被災地の復興・再生を全力で支え、国の責任による「廃炉・汚染水対策」の強化と原発依存のエネルギー政策の抜本的転換を実現させることが重要であり、被災地での学習と交流を通じて原発「再稼働」を許さず、核も原発もない社会の実現に向けて全力で運動を進める決意を固め合う」としている。

初めて現地視察を行なった参加者は、「凄惨な状況に驚いている。多くのマスクは実態を殆ど報道しなくなっている。来て良かった、地域に広めたい」と語っていた。

また23日、郡山ビックアイで開催された「交流学習会Ⅱ・現地集会」は、「第3回国労フクシマ交流学習会」としての位置付けもあり、仙台地本から60人、共闘も含めて総勢215人が参加した。

集会では「原発事故の現状と課題について」と題して、佐藤龍彦氏（双葉原発反対同盟議長）が講演。続いて、第15代平和大使として福島県から初めて任命され、一年間の活動を終えた高野桜さんから報告を受けた。

高野さんは自身の経験談と学んだことを述べ、最後に、「みなさんの考える平和とは何か。平和とは、戦争がないことだけではなく、衣食住があり、笑って生活できること」「民主主義は自分たちで勝ち取っていくものだドイツで学んだ。今後も積極的に平和運動に参加する」と決意を述べ、参加者の共感を得ていた。

- 11・19
団交（冬期団交）

11・20
各地方委員長書記長会議

11・22・23
貨物団交

11・23
国労フクシマ交流・視察学習会

11・23
第3回国労フクシマ交流学習会

近畿から激励団

被災地視察と交流会

10月1日～3日に近畿地方本部和歌山地区本部より6人が東北被災地視察訪問として仙台の地に訪れました。その際のお礼と感想等が届きましたので以下に紹介します。



先般、東北被災地視察の際には、ご多忙の中お世話になりました。

今回の視察の目的は、かつて経験のしたことのない未曾有の大震災の中で、新幹線・在来線を含め多数の列車が運転中に一部被災しながらもなぜ鉄道犠牲者は出なかったのか、被災線区地形は、震災当日の状況は、復興復旧は？。

日々そう思いの中で被災地を訪れてみたいと常々思いながら、今回ようやく近畿車掌協の仲間と訪問することが出来ました。

視察に向かう車内や現地では皆さんから「震災前まではここに町があり、学校、病院、商店街、スーパー、工場、駅、公園、水産加工場、飲食店街があった」と説明して戴きましたが、震災前を知らない私達にとっては元々ここには何も無かつ

たのではと思える程、信じ難い光景でした。

3名の乗務員が乗客を無事に避難させ、跨線橋の上で寒さと恐怖、飢えの極限状況の中で一晩を過ごし九死に一生を得た新地駅は跡形も無く、巨大な津波によって無残に打ち砕かれた当時のまま残る防波堤、山下駅は雑草の中にホームと錆び付いたレールだけが残っており、かつて人々が日常生活を送っていたとは思えない情景でした。

雨の中、二日目に案内して戴いた明暗を分けた2本の列車が停止した野蒜駅、幼い沢山の尊い命が犠牲になり悲劇の小学校と言われた女川、9月に二人で新しい人生のスタートを心待ちにしながら住民に防災無線で高台への避難を呼びかけ続け、自ら犠牲となった女性職員が勤務していたという、鉄骨だけが残る志津川町防災庁舎跡、津波と火災で甚大な被害を受け三百トンの船が打ち上げられた気仙沼。

行く先々で見る情景は、巨大な津波で全てを飲み込み、破壊し、押し流した震災当日、テレビ・新聞が報じていたあの日、あの時、

かけがえのない大切な命、財産、日常生活が奪われた3・11東北震災現実を見たような気がしました。

車窓から見える情景は同じ情景ばかりで、いかに？11東北大地震が関東から東北にかけて、太平洋側を中心に広範囲に甚大な被害をもたらしたかを認識する反面、震災前までは確かにここに人々の日常生活の全てがあつたはずなのに今は何も残っていない現実をなかなか整理する事が出来ませんでした。

大川小学校の慰霊碑、志津川の防災庁舎跡には沢山の花、千羽鶴、供物が供えられ、今もなお手を合わせる人が後を絶たず、無念にも陸前高田で殉職された故熊谷秀三氏の奥様が雨の中傘をさして私達を出迎え、墓参りの後、お父様と二人で見送って戴いたあの姿は今でも胸が詰まる思いです。今回の視察で、2年7ヶ月余りが経過しても復興復旧が進んでいない、震災前であつた人々の日常が戻っていない現実、果たしてどの位の歳月がかかるのか、10年、20年、いやそれ以上かかるのではと思わざるを得ませんでした。

「全国単一組織」の絆と連帯



交流会で、中島副委員長をはじめ出席されていたそれぞれの皆さんの言葉が、いかに震災の悲惨な状況を

物語っていたか、その中で真砂婦人部長が家族と4日間も連絡が取れず無事に再会できた時の喜び、自宅を津波が呑み込み浸水した水

が引くまで2週間もかかり、とても住める状況ではなかった家を片付け、辛うじて難を逃れた2階で不自由な環境の中で生活していること、幸いに家族を失わなかった今、これからどんな困難が待ち受けようと立ち向かっていけると言う言葉に心打たれました。

これから町の復興、ズタズタにされた鉄路の再生には長い年月、費用、紆余曲折が予想されるであろう事は当然ですが、心を一つにして頑張つて戴きたいと思っています。

私達も今回の視察を教訓として会社、自治体任せの地震・津波・自然災害対策では無く、自分達で考え行動し、いかに安全に乗客・乗員の生命、財産を守っていくのか運動をしていかなければならないと思っています。

今回の視察に際し、貴重な時間を震災復興復旧、課題が山積する中で、国労仙台地本を挙げて、私達を暖かく迎え入れて戴きました。全国単一組織としての国労の素晴らしさ、国労仙台地本の皆さんの暖かさ、絆に重ねて厚く御礼申し上げます。

今度は是非、東北の皆さんが南紀和歌山にお越し戴きますようお願い申し上げます。最後になりますが、国労仙台地本の益々のご発展と

原稿募集

国労せんだいでは、機関組織はもちろん、組合員個人の皆さんの投稿を募集しています。

「こんなことがあつたよ」「これは皆さんに知らせたいな」ということがありましたら、迷わずに地本教宣部までお知らせ願います。可能な限り掲載致しますので、まずはご連絡を。

退職のお知らせ

10月31日付

熱海 寿さん
仙台保線区
(仙建仙台台)

国分 功二さん
郡山駅連合

長い間お疲れ様でした

組織拡大、組合員・家族の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。お礼のご挨拶と致します。

頑張ろう東北！
頑張ろう国労東日本！
頑張ろう国労仙台地本！

13年10月14日
国労西日本近畿地方本部
和歌山地区本部
和歌山乗務員分会
執行委員長 江藤 修